

2020年（令和二年）

2月14日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.teej.or.jp>

■ 概況

1/30~2/5のNYMEX・WTIは、49.61~52.14ドルの範囲で推移した。

2月6日は、4日から開催中のOPECプラスの合同専門委員会(JTC)が現行減産の60万b/d追加減産を勧告するとの報道で続伸した。また、中国政府による対米報復関税の一部引き下げ発表も上げ要因となった。3月限終値は前日比0.20ドル高の50.95ドル。

週末7日は、ノバク露エネルギー相が前日の勧告について支持を避けたことから、減産拡大への期待が後退し、反落した。さらに、ユーロでドル高が進行、前日史上最高値の米国株価も暴落、リスクオフの動きも見られた。ペーカー・ヒューズ社発表の米国稼働石油掘削機は676基と前週比1基増と2週ぶりの増加。3月限終値は前日比0.63ドル安の50.32ドル。

週明け10日は、新型肺炎について、シンガポールが警戒レベルを引き上げる等、影響の拡大が懸念、さらに、中国の多数の製油所で処理量が減少しているとの報道を受け続落、4日に続き50ドルを割り込んだ。米国の2020年第1四半期GDP実質伸び率の減速観測も、値下がり要因となった。3月限終値は、前営業日比0.75ドル安の49.57ドル。

11日は、新型コロナウイルスの感染者の増加数が4日をピークに減少するなど過度の新型肺炎による世界経済停滞懸念が後退、3営業日ぶりに反発した。3月限終値は前日比0.37ドル高の49.94ドル。

12日は、前日に続き、新型コロナウイルスによる肺炎の世界経済への過度な影響懸念が後退し、続伸した。米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報の発表は、原油在庫が前週比750万バレル増と市場予想上回る積み増しに対し、製品在庫

は取り崩しで、大きな影響はなかった。3月限の終値は前日比1.23ドル高の51.17ドル。

アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場(3月渡し)は1月30日~2月5日の間53.70~58.40ドルの範囲で推移した。2月6日56.00ドル、7日55.00ドル、10日53.90ドル、12日54.00ドルで推移した。

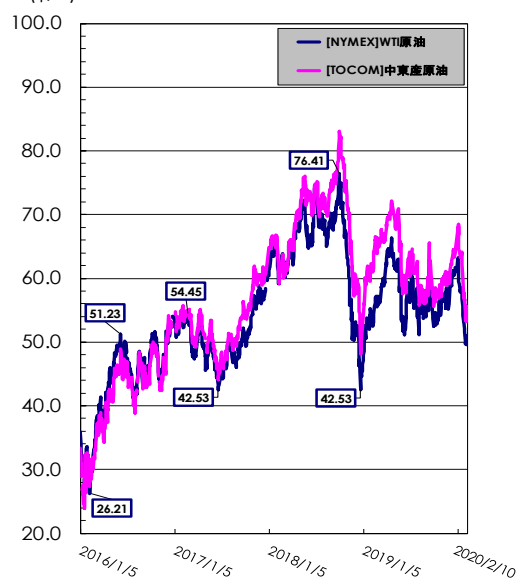
為替は1月30~2月5日の間108.52~109.46円の範囲で推移した。2月6日109.86円、7日109.92円、10日109.67円、12日109.85円で推移した。

財務省が2月7日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、1月中旬の原油輸入平均CIF価格は、48,671円/klで、前旬比1,073円高、ドル建て70.95ドルで前旬比1.82ドル高。為替レートは1ドル/109.05円だった。

そのような中で、2月10日時点の小売価格は、ガソリンが前週比1.2円の値下がり、軽油も同1.0円の値下がり、灯油は同12円の値下がり(18㍲ベース)だった。ガソリンは3週連続の値下がり、軽油は2週連続の値下がり、灯油も2週連続の値下がりだった。この週(2月第2週)の原油コストは大きく値下がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに全社2.5円値下げとなった。

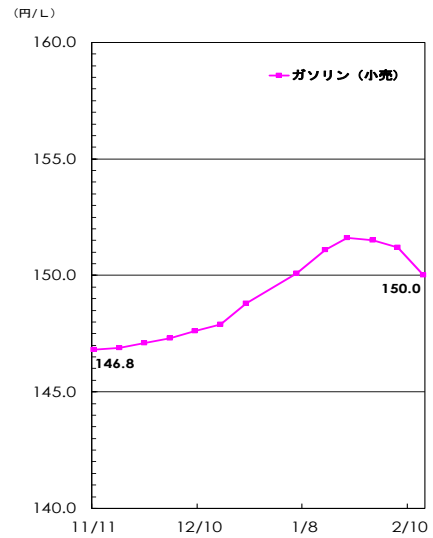
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	2/2 ~ 2/8	3,226 ▼ -121	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	82.4 ▼ -3.1	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	2/8	10,784 ▼ -119	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	2/10	53.38 ▼ -1.29	▼ -8.2
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	2/10	49.57 ▼ -0.54	▼ -2.8
	原油CIF単価 (\$/bbl)	1月中旬	70.95 ▲ 1.82	▲ 8.27
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	48,671 ▲ 1,073	▲ 5,561
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	109.05 ▲ 0.41	▲ 0.30
	外国為替TTSレート (¥/\$)	2/10	110.67 ▼ -1.15	▲ 0.88

(\$/b)



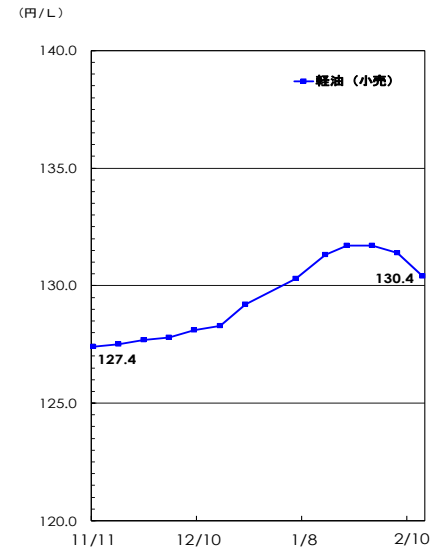
		(単位：千kl、円/%)			
ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	2/2 ~ 2/8	975 ▲ 31	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	953 ▲ 142	▲ -	
	輸出	"	47 ▼ -70	▲ -	
	在庫	2/8	1,785 ▼ -26	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/4 ~ 2/10	54.9 ▼ -4.5	▼ -1.6	
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	2/4 ~ 2/10	51.3 ▼ -2.0	▼ -1.8	
	(TOCOM/中部)	2/10	54.0 ▼ -0.5	▼ -1.5	
	小売 [週動向] (資工庁公表)	2/10	150.0 ▼ -1.2	▲ 7.1	

※業転、先物価格は税抜き価格

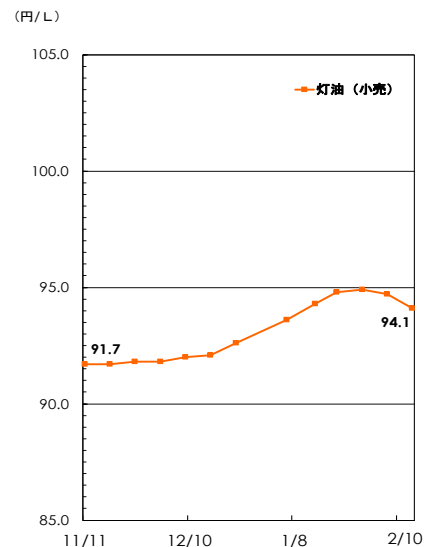


		(単位：千kl、円/%)			
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	2/2 ~ 2/8	767 ▲ 55	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	644 ▲ 99	▼ -	
	輸出	"	117 ▲ 44	▼ -	
	在庫	2/8	1,673 ▲ 6	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/4 ~ 2/10	60.4 ▼ -3.5	▲ 0.4	
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	2/4 ~ 2/10	62.4 ▼ -1.6	▲ 0.2	
	(TOCOM/中部)	2/10	-	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	2/10	130.4 ▼ -1.0	▲ 6.3	

※業転、先物価格は税抜き価格



		(単位：千kl、円/%)			
灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	2/2 ~ 2/8	273 ▼ -47	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	411 ▲ 40	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	▼ -	
	在庫	2/8	1,901 ▼ -138	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/4 ~ 2/10	58.6 ▼ -4.4	▼ -1.2	
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	2/4 ~ 2/10	53.4 ▼ -2.6	▼ -5.7	
	(TOCOM/中部)	2/10	57.0 ▼ -1.5	▼ -2.0	
	小売 [週動向] (資工庁公表)	2/10	94.1 ▼ -0.6	▲ 5.5	



■ 関連情報

1 海外/原油

2月12日のNYMEX市場WTI原油は、前日に続き、中国で新型コロナウイルスによる肺炎の感染者の増加が抑えられるなど、新型肺炎の世界経済への過度な影響懸念が後退し、続伸した。欧米株価も全面高で、投資家のリスク選好姿勢が幾分戻った。また、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報の発表は、原油在庫が前週比750万バレル増と市場予想(300万バレル増)を大幅に上回る積み増しに対し、中間留分在庫が前週比200万バレル減と市場予想(60万バレル減)を上回る取り崩し、ガソリン在庫が前週比10万バレル減と市場予想(50万バレル増)に反する取り崩しとまちまちの結果で、大きな影響はなかった。3月限の終値は前日比

1.23ドル高の51.17ドル、4月限の終値は同1.24ドル高の51.41ドル。

EIAによると、2月10日時点のガソリンの小売価格は、前週比3.6セント値下がりの1ガロン2.419ドル(70.6円/ℓ)、ディーゼルは同4.6セント値下がりの2.910ドル(85.0円/ℓ)となった。ガソリンは5週連続の値下がり、ディーゼルも5週連続の値下がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2020年2月2日～2月8日に休止したトッパー能力は29.7万バレル/日、前週に対して10.7万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は322.6万klと、前週に比べ12.1万kl減少。前年に対しては33.4万klの減少。トッパー稼働率は82.4%と前週に対して3.1ポイントの減少、前年に対しては8.5ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェット、灯油が減少となり、その他の油種で増加となった。ガソリン/3.3%増、ジェット/18.2%減、灯油/14.7%減、軽油/7.7%増、A重油/15.0%増、C重油/31.9%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.0万kl減)。軽油の輸出は11.7万kl(前週比4.4万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比でC重油で減少となり、その他の油種で増加となった。前年比ではガソリン、ジェットが増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は95.3万kl(対前週17.6%増)と4週振りで増加となり、25週連続で100万klを下回った。ジェット15.6万kl(対前週51.9%増)、灯油41.1万kl(対前週10.8%増)、軽油64.4万kl(対前週18.3%増)、A重油27.3万kl(対前週54.8%増)、C重油

15.1万kl(対前週0.3%減)。

(単位: 千KL)

	今週 (2/2 ~ 2/8)	前週 (1/26 ~ 2/1)	前週比
ガソリン	953	811	▲ 142 (18%)
ジェット燃料	156	103	▲ 53 (51%)
灯油	411	371	▲ 40 (11%)
軽油	644	545	▲ 99 (18%)
A重油	273	177	▲ 96 (54%)
C重油	151	151	▶ 0 (0%)
合 計	2,588	2,158	▲ 430 (20%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

2月8日時点の在庫は、ジェット、軽油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはA重油とC重油で減少となり、その他の油種で増加となった。

ガソリンは178.5万kl、前週差2.6万kl減。前年に対しては8.0万kl多い。

灯油は190.1万kl、前週差13.8万kl減。前年に対しては10.0万kl多い。

軽油は167.3万kl、前週差0.6万kl増。前年に対しては12.4万kl多い。

A重油は73.6万kl、前週差1.2万kl減。前年に対しては5.9万kl少ない。

C重油は192.2万kl、前週差0.7万kl減。前年に対しては13.3万kl少ない。

(単位: 千KL)

	今週 (2/8)	前週 (2/1)	前週比
ガソリン	1,785	1,811	▼ -26 (-1%)
ジェット燃料	820	811	▲ 9 (1%)
灯油	1,901	2,039	▼ -138 (-7%)
軽油	1,673	1,667	▲ 6 (0%)
A重油	736	748	▼ -12 (-2%)
C重油	1,922	1,929	▼ -7 (-0%)
合 計	8,837	9,005	▼ -168 (-1.9%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

2月4日～10日の原油価格は、前週比で大きく値下がりし、為替は円安でこれをわずかに相殺したが、原油コストは大きく値下がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、2月4日～10日の間、ガソリン107～110円台で大きく値下がり、軽油59～63円台で大きく値下がり、灯油57～60円台で大きく値下がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン111～112円台で値下がり、軽油61～65円台で大きく値下がり、灯油54～56円台で大きく値下がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン104～106円台で値上がり後大きく値下がり、軽油62円台で値下がり、灯油52～54円台で値上がり後大きく値下がりして推移した。

次週の元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社2.5円の値下げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

2月4日～10日の製品スポット市況は、1月28日～2月3日平均と比べ、全油種・全取引で大幅に値下がりした。

直近の陸上スポット価格(2/4～2/10、千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、前週比で、ガソリンは4.5円の値下がり、灯油は4.4円の値下がり、軽油は3.5円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは3.3円の値下がり、灯油は3.2円の値下がり、軽油は3.8円の値下がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが2.0円の値下がり、灯油は2.6円の値下がり、軽油は1.6円の値下がりだった。

2月第3週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社2.5円の値下げになった。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
ス ポ ッ ト 価 格	今週 (2/4～2/10)	前週 (1/28～2/3)	前週比	
	レギュラー	54.9	59.4	▼ -4.5
	灯油	58.6	63.0	▼ -4.4
	軽油	60.4	63.9	▼ -3.5

(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
先 物 価 格	今週 (2/4～2/10)	前週 (1/28～2/3)	前週比	
	レギュラー	51.3	53.3	▼ -2.0
	灯油	53.4	56.0	▼ -2.6
	軽油	62.4	64.0	▼ -1.6

※上記価格は税抜き価格

参考値 (2/4～2/10実績値)		(単位: 円/ℓ)		
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	▼ -4.5	▼ -2.0	▼ -3.3	
灯油	▼ -4.4	▼ -2.6	▼ -3.5	
軽油	▼ -3.5	▼ -1.6	▼ -2.6	
A重油	▼ -3.5			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

2月10日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前回比1.2円安の150.0円、軽油は同1.0円安の130.4円、灯油は18ℓベースで同12円安の1,693円(1ℓベースでは同0.6円安の94.1円)。ガソリンは3週連続の値下がり、軽油は2週連続の値下がり、灯油も2週連続の値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが3県、横ばいが3県、値下がりが41都道府県となった。全国最安値は埼玉県と石川県の145.0円(各同1.7円安・同2.5円安)、その次に安いのは岡山県の145.4円(同1.0円安)、最高値は長崎県の162.8円(同0.4円高)。最も値上がりしたのは同0.4円高の長崎県(162.8円)、横ばいは高知県・佐賀県・鳥取県の3県、

最も値下がりしたのは同2.5円安の石川県(145.0円)だった。

先週の原油コストは値下がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社4.0円の値下げとなった。今週も、原油価格は大きく値下がりし、為替レートはわずかに円安だったが、原油コストは大きく値下がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社2.5円の値下げとなった。次回調査時(2月17日)のガソリン・灯油の小売価格は、値下がりが予想される。

(資工庁公表)		(単位: 円/ℓ)			
[週動向]		今週 (2/10)	前週 (2/3)	前週比	直近高値
小売価格	レギュラー	150.0	151.2	▼ -1.2	08/8/4 185.1
	灯油	94.1	94.7	▼ -0.6	08/8/11 132.1
	軽油	130.4	131.4	▼ -1.0	08/8/4 167.4

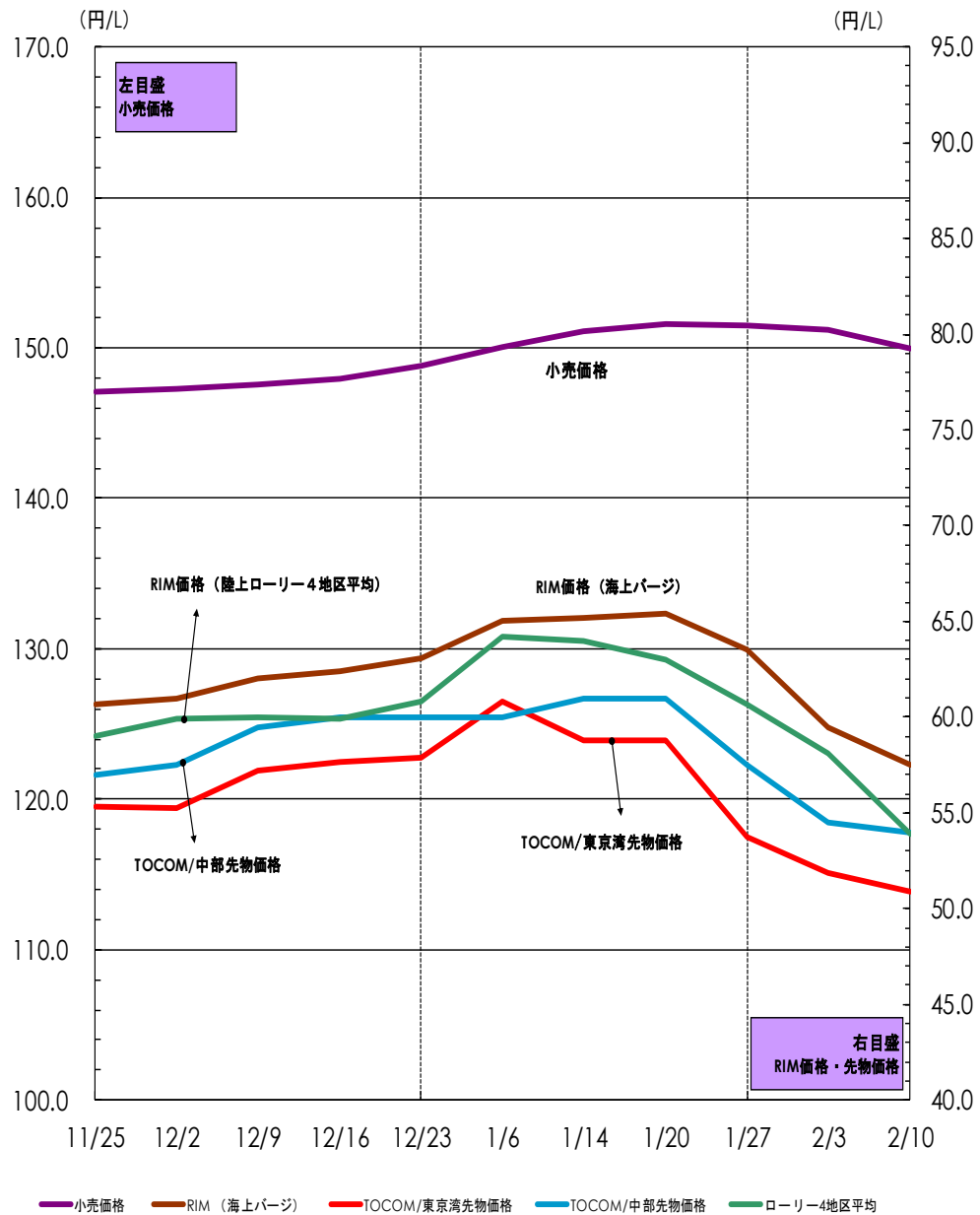
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2019/11/25 ~ 2020/2/10)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2019第44号)の公表は、2/21(金) 14:00 です。

「セルフSS出店状況」(令和元年9月末現在)は、12月25日(水) 14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。